

科目名	心理学 I B							学 期	前期
副 題	-				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N1-10-229	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達の視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

授業の到達目標

心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

授業計画

1. オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2. 実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3. 感覚と知覚について学ぶ。(その1) <感覚の仕組み>
4. 感覚と知覚について学ぶ。(その2) <知覚の仕組み>
5. 記憶のメカニズムについて学ぶ。(その1) <記憶の分類>
6. 記憶のメカニズムについて学ぶ。(その2) <記憶の過程・長期記憶の種類>
7. 記憶のメカニズムについて学ぶ。(その2) <脳と記憶について>
8. 学習について学ぶ。(その1) <古典的条件付け>
9. 学習について学ぶ。(その2) <道具的条件付け・学習と認知>
10. 学習について学ぶ。(その3) <学習と動機づけ>
11. 言語と思考について学ぶ。(その1) <言語の発達>
12. 言語と思考について学ぶ。(その2) <概念カテゴリー>
13. 言語と思考について学ぶ。(その3) <推論とイメージ思考>
14. 意識と認知システムについて学ぶ。
15. まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる。各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し、次回に提出させる(計90分以上)。

テキスト

梅本堯夫, 大山正, 岡本浩一, 高橋雅延著『心理学第2版心のはたらきを知る』サイエンス社, 2014年(書店で購入)

参考書・参考資料等

森津太子, 森公美子編著『心理学概論』, 放送大学テキスト, 2018年 斎藤 勇編, 『図説心理学入門』 誠信書房, 2005年 梅本堯夫, 大山正著『心理学への招待 こころの科学を知る』サイエンス社, 2015年

学生に対する評価

レポート (50%)・発表 (20%)・授業参加の積極性 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
- (B) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを理解している。
- (A) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを説明できる。
- (S) 感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムとともに、脳生理学の理論をからも説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業のいくつかの単元で体験的な心の実験(active learning)を入れながら、学んでゆく。体験学習をいれるので、積極的な参加が必要。特に自己の内的体験を言葉にするような学習スタイルをとる。積極的な参加が必要。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち,どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクティショナー、SEプラクティショナー、ゲシュタルトセラピスト125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、「人間の心の成長と傷つき」と「回復」について、実験心理学や基礎心理学を臨床心理学との関係づけながら学び、その興味・関心を持てる場としたい。